

[誤り] P023 の文章が続いていません。

[誤り]

早見表と表計算の2つの方法

……より現実的な区分が行われています。

[正] P023 の続きに以下の文章と図を追加します。(COLUMN の次)

[正]

早見表と表計算の2つの方法

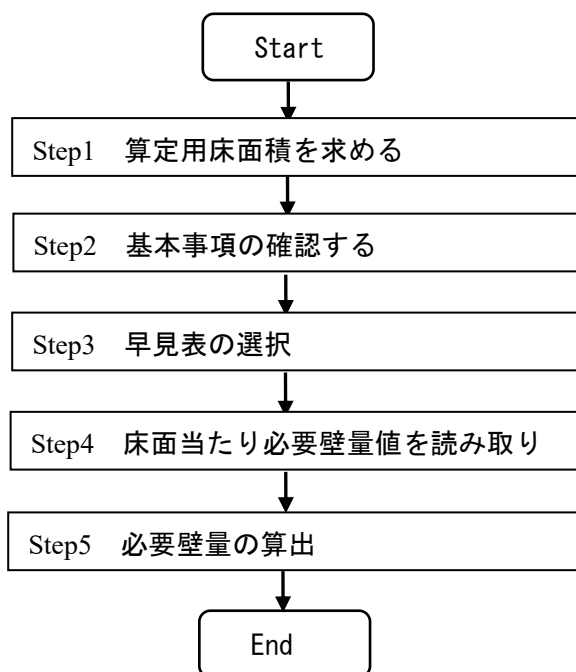
……より現実的な区分が行われています。

早見表とは

1) 早見表とは、必要壁量を求める基本式であらかじめ計算したものです。早見表の結果は旧法の「床面積に乗ずる数値」と同じとなります。木造建物の仕様ごとに細くなり、選択項目が増大しました。国土交通省発行「確認マニュアル」の核心的な技術情報です。本書で全文を転載することができません。しかし、[表 3]でその一例を示します。

早見表の使い方（フロー図）

これより早見表を使った必要壁量算出の手順を説明します。フロー図は下図のとおりです。



[解説]

Step1

- 1) 法定床面積を確認する
- 2) 壁量算定用床面積を求める(次節で図解説明)

Step2

当該計画の基本事項を確認します。その基本事項とは

- 1) 2階階高(制限: 3.2m以下)
- 2) 1階階高(制限: 3.2m以下)
- 3) 標準せん断力係数(通常は0.2、沖積層30m以上の地なら0.3)
- 4) 太陽光発電設備の有無
- 5) 床面積比(法定2階床面積 / 法定1階床面積)注: 算定用床面積ではない。
- 6) 柱材仕様(例えば 杉 無等級材)

Step3

基本事項を手がかりに、当該計画に一致する早見法を探し、該当欄を特定する。

例えば、

- 1) 2階階高 3.2m
- 2) 1階階高 3.2m
- 1) 標準せん断力係数 0.2
- 2) 太陽光発電設備等 あり
- 3) 床面積比 0超0.2未満
- 4) 柱の仕様 杉無等級

ならば、早見表No1となります。

屋根の仕様: スレート、外壁仕様: サイディングならば、網掛けの欄を特定できます。

屋根の仕様	外壁仕様	床面積に乗ずる数値		
		平屋	2階建1階	2階建2階
スレート屋根	モルタル	22	28	37
スレート屋根	サイディング	20	25	33
スレート屋根	金属板張	20	24	32

Step4

床面積当たりの必要壁量値を読み取ります。Step3の例なら、

2階建1階	2階建2階
28	37
25cm/m ²	33cm/m ²
24	32

です。

Step5

必要壁量算定式は、
地震力に対する

必要壁量(cm) = 各階の床面積(m²) x 床面積当たりの必要壁量値 (cm/m²)

ここに各階の床面積とは、算定用床面積のことです。

算定用床面積

1) 必要壁量算定用床面積は、法定面積と規定しています。しかし、「住宅表示制度における床面積の算定方法を参考にする」とも言っています。

2) 必要壁量算定用床面積は、上見面積です。

算定用2階床面積---2階屋根面積+小屋裏加算用面積(a)

算定用1階床面積---2階床面積+吹抜+片持バルコニー面積×0.4+

下屋面積+小屋裏加算用面積(a)+玄関ポーチ面積

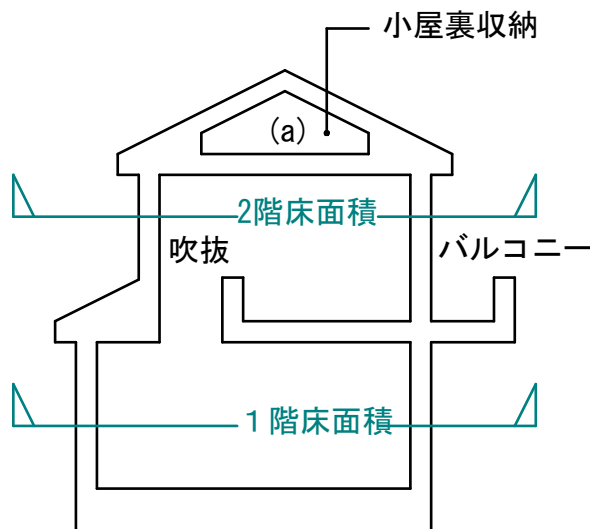
注：1) 小屋裏収納の面積が、直下階の床面積の1/8を超える場合、小屋裏加算用面積(a)を各階に加えます。

小屋裏加算用面積(a)=2階小屋裏収納面積×平均天井高(m)/2.1

2) 吹抜面積は床があるものとして算定用1階床面積に加算します。

3) バルコニー分の加算面積=バルコニー床面積×0.4

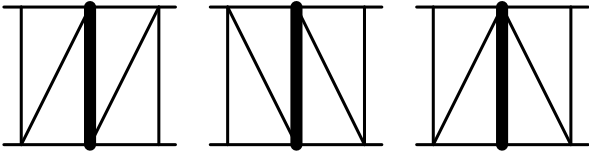
4) ポーチ面積を加算します。



P039 表 1 筋交の組み合わせと補正值

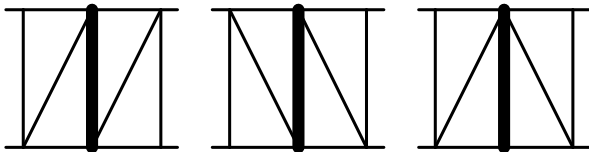
③片筋かいが両側から取り付く柱の場合[誤り]

③[誤り]

片筋カイ				
右筋カイ	15 x 90	30 x 90	45 x 90	90 x 90
左筋カイ	15 x 90	30 x 90	45 x 90	90 x 90
15 x 90	補正值=0	0.5	0.5	2.0
30 x 90	0	0.5	0.5	2.0
45 x 90	0	0.5	0.5	2.0
90 x 90	0	0.5	0.5	2.0

③片筋かいが両側から取り付く柱の場合[正]

③[正]

片筋カイ				
右筋カイ	15 x 90	30 x 90	45 x 90	90 x 90
左筋カイ	15 x 90	30 x 90	45 x 90	90 x 90
15 x 90	補正值=0	-0.5	-0.5	2.0
30 x 90	0.5	0.5	0.0	1.5
45 x 90	0.5	0.5	0.5	1.5
90 x 90	2.0	1.5	1.5	2.0